

平成27年12月21日

三鷹市議会議長 後 藤 貴 光 様

文教委員長 加 藤 浩 司

文教委員会管外視察結果報告書

本委員会は、平成27年度管外視察を下記のとおり実施したので報告いたします。

記

1 視察期日

平成27年10月8日（木）から10月9日（金）まで

2 視察先

福井市（福井県）、岡崎市（愛知県）

3 視察項目

(1) 学力向上の取り組み（福井市）

本市では、「三鷹市立小・中一貫教育校小・中一貫カリキュラム」に基づき9年間の義務教育における学びの連続性と系統性を明確にした学習指導の推進を図る中で、確かな学力の育成に取り組んでいる。

具体的な取り組みとしては、国や東京都の学力調査等の活用を図るとともに、児童・生徒の望ましい生活習慣や学習習慣の定着及び教員と児童・生徒との双方向型の授業づくりを推進するために「三鷹学びのスタンダード（学校版）」の取り組みを進めている。また、核家族化、地域における地縁的なつながりの希薄化等により、身近な人から家庭教育等について学ぶ機会が減少していることから、市立小・中学校、PTAとの共催による「家庭教育学級」や、地域SNS等の情報交換ツールの充実を図り、学校・家庭・地域が互いの知恵を結集し、地域ぐるみで家庭教育を支援する体制の整備を推進している。さらに、家庭における教育力の向上を図るために、子どもたちの生活習慣、学習習慣に着目した「三鷹学びのスタンダード（家庭版）」の家庭における実践を奨励している。

そこで、本市議会としても、今後の児童・生徒の学力向上の取り組みの参考とするため、先進事例である福井市の視察を行った。

(2) 岡崎市図書館交流プラザ（岡崎市）

本市では、市民一人ひとりが、その個性や能力を伸ばしライフスタイルにあった方法により、「いつでも、どこでも、だれでも、そしていつまでも」学ぶことができる生涯学習社会の構築に向けて、生涯学習を支援する環境の整備、施策の充実を推進するとともに、学校・家庭・地域の多様な担い手との連携を図り、地域全体の教育力の向上を目指して取り組んでいる。

具体的な取り組みとしては、多様な市民ニーズを反映した生涯学習活動の支援を行うため、生涯学習事業を実施する際にアンケート調査を行うなど、市民による事業の評価とニーズを把握し、その上で生涯学習情報システムの充実や広報紙やホームページなどの媒体の活用により、多様な生涯学習情報の提供に努めている。また、情報拠点としての市立図書館の充実を図るとともに、生涯学習相談員による窓口相談（社会教育会館）のほか、電話、ファクス、電子メール等の通信手段を活用し、学習者の個別ニーズに合わせてきめ細かな相談に対応するなど、在宅相談体制等の充実も図っている。

そこで、本市議会としても、今後の市民の多様な学習活動の支援と生涯学習の拠点づくりの参考とするため、先進事例である岡崎市図書館交流プラザの視察を行った。

4 出張者

(1) 文教委員

加藤 浩司、寺井 均、谷口 敏也、伊藤 俊明、森 徹
※ 伊沢けい子委員、半田伸明委員は欠席

(2) 同行職員

教育部生涯学習担当部長 宇山 陽子

(3) 随員職員

議会事務局副主幹 藤井 泰男

学力向上の取り組み

1 福井市の学校教育の概要

(1) 福井市の学校の概況

ア 学校数と児童・生徒数（H27. 4. 1 現在）

小学校 50校 児童数 14,091人

中学校 23校 生徒数 6,987人

※ うち、小・中併設校 4校

幼稚園 19園（1分園）園児数 182人（5歳児は123人）

※ 幼稚園は小学校に併設

イ 学級編制基準（福井県の基準）

小学校1、2年 35人 31人以上の学級には支援員を配置

小学校3、4年 35人 31人以上の場合は加配教員

小学校5、6年 36人 31人以上の場合は加配教員

中学校1年 30人

中学校2、3年 32人

(2) 福井市学校教育目標

郷土福井に誇りを持ち、たくましく生きるこどもの育成

(3) 2学期制の実施

授業時間の確保、夏休み・冬休みの有効活用等を目的に、平成19年度から全小・中学校で実施（17年度からモデル校で試行）している。1学期は10月第2木曜日まで、2学期はその翌日から始まる。

(4) 支援員等の配置

ア 教育相談関係

- ・スクールカウンセラー（県：主に中学校、市：小学校）
- ・スクールソーシャルワーカー（県）
- ・チャレンジ教室（適応指導教室）教育相談員（市）
- ・ライフパートナー（大学生）（市）※ 福井大学との連携

イ 特別支援教育関係

- ・特別支援非常勤講師（県）・いきいきサポーター（市）
- ・障害児介助員（市）

ウ その他

- ・中学校ALT（県）・小学校ALT、FCA（文化大使）（市）
- ・日本語指導ボランティア指導員（市）
- ・通訳、翻訳ボランティア（市）・学校図書館支援員（市）

2 中学校区教育について

(1) 中学校区教育の目的

- ア 同じ中学校区内にある保・幼・小・中が一体となり、子どもの学びの連続性、目標・内容の系統性、指導の継続性を踏まえ、意図的・計画的に一貫した取り組みを行う。
- イ 地域と協働した教育を進めることを通して、子どもが地域の一員として将来にわたって地域づくりに貢献できるようになることを目指す。

(2) 中学校区教育の経過

- ア 平成17年度～21年度
「中学校区教育」の推進・充実・強化・発展・定着プラン
- イ 平成22年度～24年度
特色ある中学校区文化の創造
- ウ 平成25年度～28年度
学びの一貫性と確かな接続

(3) 各中学校区の取り組み

- ア 体験活動の充実
- イ 地域の人材・資源の活用の推進
- ウ 保・幼・小・中の交流
- エ 家庭や地域との連携
 - ・地域、学校協議会の設置
 - ・中学校区連絡会の運営
 - ・中学校区教育支援地域本部の設置
 - ・教育ウイークの開催
 - ・わくわく交流デー（小学校体験入学）の開催など



わくわく交流デー ※ 福井市提供資料より

(4) 学校への支援

地域に生きる学校づくり推進事業による支援

平成27年度 2,600万円を配分（1校当たり23～51万円）

(5) 中学校区教育の成果

ア 子どもにとって

- ・入進学への抵抗感の軽減（交流活動、体験入学）

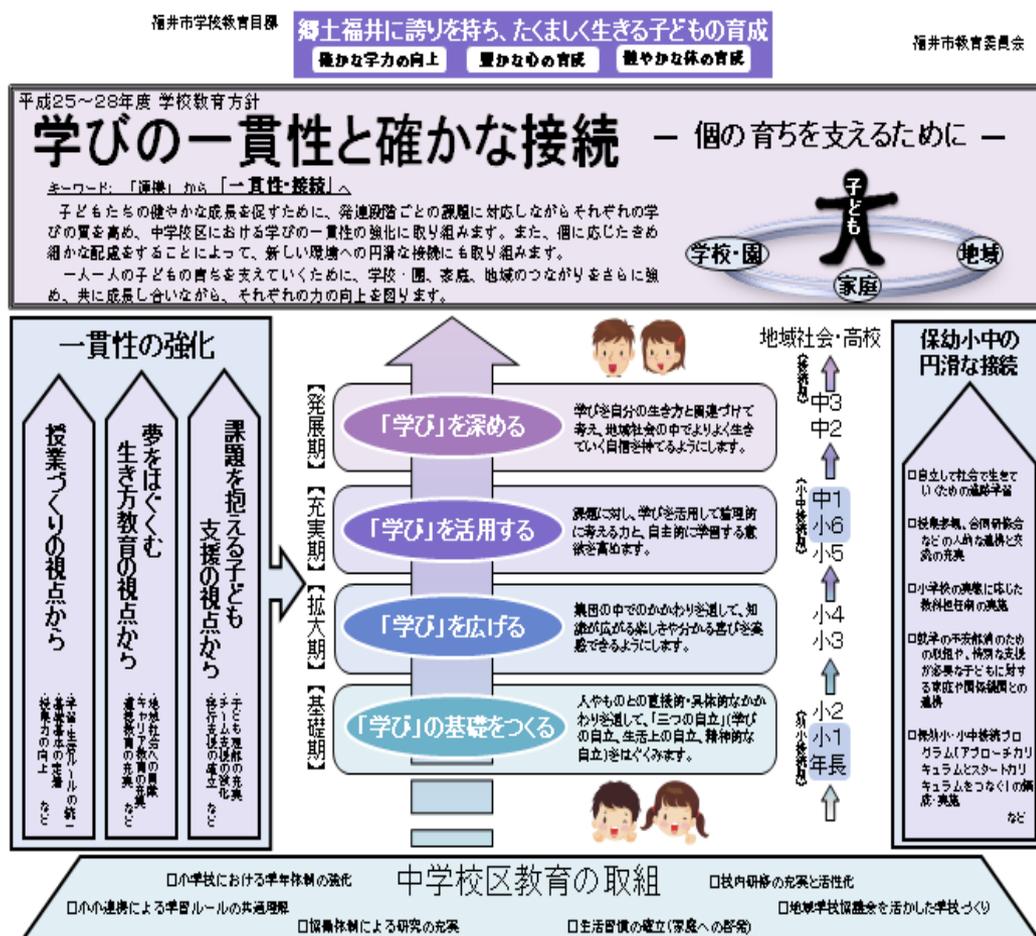
イ 保護者・地域との関係において

- ・保護者や地域住民の理解の深まり（教育ウィーク）
- ・学校の教育活動への協力の進展

ウ 教員・学校にとって

- ・子どもの成長を長いスパンで捉える視野の広がり
- ・他校種の教員から学ぶことによる指導力の向上
- ・的確な情報を元にした新入生への指導
- ・連携した指導による学習面、生活面での指導効果

(6) 現在の福井市学校教育方針



※ 福井市提供資料より

3 学力の状況と取り組みについて

(1) 平成27年度全国学力・学習状況調査～平均正答率（公立）

		国語A	国語B	算数・数学A	算数・数学B	理科
小 6	福井市	74.2%	72.0%	78.9%	50.2%	66.9%
	福井県	73.8%	72.1%	79.2%	50.0%	66.8%
	全 国	70.0%	65.4%	75.2%	45.0%	60.8%
中 3	福井市	79.9%	69.6%	71.7%	49.0%	62.0%
	福井県	79.5%	69.8%	71.1%	47.7%	61.3%
	全 国	75.8%	65.8%	64.4%	41.6%	53.0%

※ 福井市提供資料より

(2) 結果の分析と活用

ア 教育委員会

- ・調査研究委員会を開き、市全体としての結果を分析
- ・課題に対する改善策を提案

イ 各小・中学校

- ・校内研究会等で学校の課題を分析
- ・校内での改善策を検討、実践

(3) 学力調査と学力向上プラン

ア 学力調査

- ・全国学力・学習状況調査
- ・SASA（福井県学力調査）～昭和26年から実施

イ 学力向上プラン

- ・県内の全公立小・中学校が作成
- ・昨年度の学校の取り組みにおける課題を踏まえた学力向上策について記述

(4) 授業づくりに対して重視する点

ア 指導主事学校訪問

- ・全小・中学校（幼稚園）に年間2回の計画訪問
- ・全教員が授業公開
- ・全教員参加の研究協議会
- ・研究協議会の工夫（ワークショップ型研究会など）

イ コア・ティーチャー養成事業（県事業）

- ・読解力（国語）、活用力（算数・数学）を伸ばす授業づくり
- ・県、市の指導主事が授業づくりのアドバイス
- ・5年間で約半数の小・中学校を指定
- ・福井市は中学校区単位での指定

(5) 教員研修

ア 教職員研修

- ・教職員課題別研修 夏休みを中心に県実施の研修とも連携
- ・教育研究協議会（小・中）校内の研究体制、授業づくり等をテーマに

イ 教職大学院（福井大）との連携

- ・勤務を続けながら研修
- ・拠点校への支援
- ・補助制度（大学、県、市）

(6) これまで子どもたちの学力を支えてきたと考えられるもの

ア 伝統的な取り組み

- ・学習会（朝、大休み、放課後、長期休業）

イ 縦持ち

- ・中学校の全教員が1年生から3年生まで全ての学年を受け持つ。

 3年主任	3-1 	3-2 	3-3 	3-4 
 2年2組担任	2-1 	2-2 	2-3 	2-4 
 1年4組担任	1-1 	1-2 	1-3 	1-4 

※ 福井市提供資料より

縦持ちのメリット

- ・同じ学年を担当する複数の教員で協働して授業づくりを行うため、個人でつくる授業より質の高いものができる。
- ・指導方針を統一してから指導に当たるため、担当教員による差が生まれない。
- ・複数の教員で成績をつけるため、統一した基準で成績をつけられる。
- ・中学校1年から3年までの3年間を見通した教科指導ができる。

- ・他学年の生徒とのつながりが生まれ、学校全体で生徒を育成する意識が強くなる。
- ・若い教員にとっては先輩教員の授業手法を自然に学ぶことができ、効果的にスキルアップを図ることができる。

ウ 生活ノート

エ 家庭学習の習慣化（宿題）

- ・宿題の量が多い（小学校では学年×10分、中学校では学年＋1時間を目安にしている）のが特色で、学習塾に通わなくても学力が身に付くだけの宿題を与えている。

オ 家庭・地域の環境（祖父母の存在、地域の信頼）

- ・47都道府県中、世帯人員2位、核家族の割合42位、三世代世帯の割合2位、共働き世帯の割合1位、地域の安定（少ない転出入）など

◎ 主な質疑

- ・全小・中学校で2学期制を導入した経緯及び効果について
- ・SASA（福井県学力調査）の活用方法について
- ・小学校に幼稚園を併設することのメリットについて
- ・学力向上の取り組みを支える「縦持ち授業」の基本的な考え方について
- ・独自の少人数教育の効果について
- ・家庭や地域と連携した学力向上の取り組みについて
- ・中学生の部活動の加入率について

◎ 主な提供資料

- ・福井市の学校教育
- ・平成26年度福井市教育ウィーク取組一覧
- ・平成27年度学校教育方針
- ・平成27年度福井市学校教育課の主な教育事業概要
- ・平成27年度全国学力・学習状況調査〈国語科〉
- ・平成27年度全国学力・学習状況調査〈算数・数学科〉
- ・平成27年度全国学力・学習状況調査〈理科〉

岡崎市

岡崎市図書館交流プラザ

1 岡崎市図書館交流プラザについて

岡崎市図書館交流プラザは、図書館を核とした「楽・習・交流」を育む魅力ある生涯学習拠点の形成をメインテーマに、市民の知的・文化的ニーズへの対応による自己実現と自主的な活動及び岡崎らしさの発信により、多様な交流機会を創出することを目的として、平成20年11月1日に開館した。最新設備を導入した100万冊の収蔵能力を持つ中央図書館をはじめ、生涯学習・市民活動・国際交流・男女平等参画の各センター機能を統合した市民活動総合支援センター、ホール、スタジオ、内田修ジャズコレクション展示室、岡崎むかし館など、従来の図書館という枠を超えて幅広い分野にまたがり、知的交流を楽しむ施設となっている。また、施設の設計や運営計画に当たっては、市民検討ワークショップやサポーター支援会議に寄せられた市民の願いが生かされている。建設地は岡崎城の城郭の一部で、大樹寺の境内から三門を通して岡崎城天守閣を望む眺望ライン（ビスタライン）上に当たる。これらを建物デザインに取り入れ、歴史的文脈と都市景観が融合した洗練された外観となっている。愛称の「Libra（りぶら）」は、市民公募によるもので、「Library（図書館）」と「Liberty（自由）」を組み合わせた造語であり、明るく希望あるイメージとなっている。



岡崎市図書館交流プラザ

2 事業の経過

- 平成11年度 岡崎市中心市街地活性化基本計画策定
- 平成12年度 岡崎市生涯学習推進計画策定
- 平成14年度 再活性化拠点整備基本構想策定
 - ・ 中心市街地活性化推進検討会・全4回

- ～導入機能、施設計画、事業化計画等に係わる基本構想のまとめ
- 平成15年度 中心市街地再活性化拠点整備基本計画策定
 ・中心市街地活性化推進検討会・全5回
- ～施設計画、交通計画、事業計画等のまとめ
- 岡崎市新図書館基本計画策定
 ・岡崎市新図書館基本計画策定委員会・全6回
- ～図書館サービス計画、施設計画等のまとめ
- 平成16年度 康生地区拠点整備基本計画
 ・設計者選定、基本設計市民検討ワークショップ・全6回
- 平成17年度 康生地区拠点整備実施計画
 ・設計、運営等市民検討ワークショップ・全6回
- 平成18年度 (仮称)岡崎市図書館交流プラザ管理運営計画策定
 ・管理運営等検討会開催・全5回
- 施設愛称公募及び投票を経て愛称を「Libra (りぶら)」に決定
 施設建設工事着手(7月)
- 平成20年度 オープン(11月1日)

3 施設概要

名称	岡崎市図書館交流プラザ	構造	鉄筋コンクリート
愛称	Libra (りぶら)	階数	地上3階建て
計画面積	約25,000㎡	高さ	約15m
建築面積	約13,500㎡	駐車場	約450台(平成27年現在)
延床面積	約18,000㎡	駐輪場	約300台

4 岡崎市図書館交流プラザの4つの機能

(1) 中央図書館 「全市民の知識の宝庫となり、新たな文化を創造する」

施設の核として、他の機能と有機的に連携するとともに、生涯学習の拠点として、市民の知的活動と文化活動を支援している。また、情報化時代に柔軟に対応できる情報拠点機能を持ち、文化都市岡崎にふさわしい個性的で魅力ある図書館を目指している。また、ICタグを採用するなど利用者の利便性向上を図っている。

ア ポピュラーライブラリー

生活に身近な資料をテーマ別にまとめるとともに、多種類の新聞・雑誌を楽しむブラウジングコーナーやCD・DVDを揃えた視聴覚コーナーのほか、中学生・高校生の読書に対する関心を高めるティーンズコーナーがあり、グループ室(3室)等を含め閲覧席を430席用意している。

イ 子ども図書室

読み聞かせを始め、くつろいだ雰囲気の中で本に親しんでもらうスペースがある。このフロアには、児童書や絵本、紙芝居を約4万冊並べられる書架、おはなしのへやのほか、閲覧席（845平方メートル）を80席用意している。

ウ レファレンスライブラリー

地域（郷土・行政）資料、参考資料などの専門性の高い資料を揃えたフロアで、レファレンス（相談）カウンターでは、さまざまな課題解決や調査・研究を支援するために、図書館資料や関連情報（書籍のほか、インターネット等を利用した情報検索・電子情報等）を提供するとともに、調査・研究の場として研究個室やグループ室がある。このフロアには、約16万冊の図書室の資料が並べられる書架のほか、インターネット席、グループ室等を含め閲覧席を190席用意している。

(2) 活動支援 「市民活動と自己実現を支援する」

市民が自主的に進める生涯学習及び社会貢献活動を総合的に支援することを目的として、さまざまな講座の企画、生涯学習を含む市民活動の情報提供、相談事業等を実施するとともに、活動に必要な設備やスペースがある。

ア 市民活動総合支援センター

生涯学習センター、国際交流センター、男女共同参画センター、市民活動センターを統合した総合支援センターとして、各種講座や相談事業、情報提供や交流事業を実施し、市民のさまざまな自主的な学習や社会貢献活動をサポートしている。

イ 活動コーナー・印刷作業室

簡単な打合わせや連絡に使う市民団体向けのフリースペースで、チラシや資料作成などのため、簡易印刷機などを備えた作業室もある。また、市民活動団体同士の情報交換、関係資料の提供・閲覧を通じ交流を促進している。

ウ 情報コーナー

インターネットにより市政情報や公共施設の情報の検索・閲覧が可能で、チラシ、パンフレットの提供、ポスター掲示などの紙情報だけでなく、多様な情報媒体にも対応し、さまざまな情報提供に努めている。

エ 会議室・調理室

和室を含め8室の会議室があり、可動間仕切りをとることにより最大約200人が利用できる。また、料理講習や調理を伴う市民活動には、講師用を含め5箇所の調理台を備える調理室がある。会議室にはホワイトボード、マイクセット、プロジェクターなどを備え、学習、講習や会議など目的、人数に合わせて利用できる。

(3) 文化創造 「市民が誇れる岡崎らしさを発信する」

「歴史的個性の特化」「文化的個性の伝承」「産業的個性の創造」「郷土偉人の顕彰」「市民の心の育成」を目指し、文化や産業などの目的に幅広く対応する多目的ホール、音楽スタジオ、展示室などを整備している。岡崎らしさを発見・発信する場として、見て、聞いて、感じて、触れられるような充実した機能や設備を備えている。

ア ホール

可動式の客席最大292席を備え、残響の少ない音響特性を持ち、ジャズやロックなどのPA（拡声装置）を使用する音楽演奏、講演会などに適している。また、客席を収納すれば、床がフラットになり、ホール全体を利用した展示会やパーティーなどに利用できる。

イ スタジオ

大・中・小3種類の大きさの6つの音楽練習スタジオで、ピアノやドラム等の楽器以外にも、ダンスバーや姿見鏡などを設置することにより、ダンスの練習など多目的に利用できる。

ウ ギャラリー

施設内のいたる所にギャラリーの場を設け、文化活動や創作活動の成果発表や作品展示の場として利用できる。

エ 創作室

地域が有する技の伝承や、ものづくりの楽しさを体験する場として活用するとともに、工作室としても利用できる。

オ 内田修ジャズコレクション展示室

岡崎市出身で日本ジャズ界の発展に大きく貢献したジャズ愛好家の内田修氏が市に寄贈した貴重なコレクションなどが展示されている。

カ 歴史資料展示室「岡崎むかし館」

歴史資料の展示、昔の生活道具の小・中学校への貸し出し、体験講座やイベントなどを行っている。

(4) 交流 「館内外を緩やかにつなぎ、出会い・感動を生み出す」

各施設への導入空間であり、情報発信を兼ねたくつろぎの場である。市民の知的・文化的ニーズに応じた情報を受発信することで多様な交流機会を創出し中心市街地活性化に向けた仕掛け、あるいは舞台装置のひとつになることが期待されている。

ア 交流スペース

各機能を分断することなく、人々の交流と活動を育む空間で、待ち合わせや歓談はもちろん、少人数での打ち合わせや飲食、休憩もできる。

イ 読書広場

図書館を背に伊賀川を眺めながら木陰のある落ち着いた環境で読書を楽しめる広場で、図書館側の視線を気にすることなくゆっくり読書ができる。

ウ 芝生広場

子ども図書室の前庭として、樹木を配置せず、建物とつながる緩やかな芝生の丘というシンプルな構成を特徴としている。誰もが自由に腰掛けたり寝転んだりできる明るく落ち着いたくつろぎの空間となっている。

エ 乳幼児室

小さい子どもと保護者が一緒に遊んだり、休憩できる部屋で、授乳やおむつ替えをする場所を併設しており、周囲に気兼ねなく安心して過ごすことができる。

オ ストリート広場

伊賀川とプロムナードを散策路で結び、フリーマーケットやライブといった各種催しや、市民活動・展示などの舞台となる広場型園路で、地形の高低差を生かし、建物とのつながりを持たせながら、大階段や並木、緩やかに蛇行する植栽帯でリズムカルなにぎわいと、縁側のような憩の空間となっている。

カ コンビニ&カフェ

施設利用者の利便性、飲食サービスの提供だけでなく、交流の場として、まちのにぎわいにも貢献している。

5 経費について

岡崎市図書館交流プラザの施設整備費は約100億円、財源の内訳は、都市再生整備計画のまちづくり交付金16億円、地方債12億円、基金50.7億円、一般財源21億円となっている。施設の管理運営は開設時から直営（平成25年度に指定管理者の導入を検討）で行っており、ランニングコストは毎年約10億円である。

6 評価及び今後の課題について

平成20年11月1日の開設から平成27年10月8日までの来館者数は1,034万9,966人で、年間150万人、1日平均4,800人となっており、当初の見込み数を大きく上回っている。また、市民活動団体は560団体登録されており、市民主体の自主的な運営による新しい文化の発信拠点でありたいとする図書館交流プラザ構想の目的は達成されている。今後は施設の老朽化に伴う維持管理費の増への対応、さらに多くの市民に利用してもらうための魅力ある事業展開などが課題である。

◎ 主な質疑

- ・市民検討ワークショップにおける議論の方向性について

- ・複合施設で運営することによるメリットとデメリットについて
- ・本施設に指定管理者制度を導入せず、市直営で運営する理由について
- ・会議室等の稼働率と市民関係団体の利用率について
- ・岡崎市立中央図書館と他の図書館等とのネットワーク化について
- ・岡崎市の図書館システムの特徴と今後の課題について
- ・りぶらサポータークラブの役割について

◎ 主な提供資料

- ・岡崎市図書館交流プラザ施設概要
- ・岡崎市の図書館概要
- ・岡崎市立中央図書館利用案内
- ・内田修ジャズコレクション展示室
- ・岡崎むかし館

〔最後に〕

以上、調査事項について資料等による説明、施設の視察、各委員の質疑等によって判明したことを含め、視察の概要を記した。

なお、視察項目の設定に当たっては、前述のとおり本市における現在の行政課題等を念頭に行ったものである。

また、視察時間を有効に活用するため、事前に視察項目に関する資料を収集し本市事業との比較、検討を行った上で視察に臨んだ。

本委員会は、これらの成果を今後の委員会活動はもとより、市行政に反映させていくことを確認し、管外視察の結果報告とする。